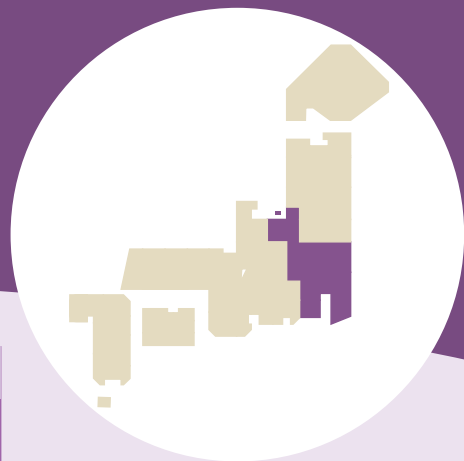


関東・甲信越



p.16 栃木県

篠崎 明さん
サッカー



p.17 栃木県

松原 操さん
マラソン



p.18 群馬県

榊原よし子さん
水泳



p.19 群馬県

坂田 弘さん
サッカー



p.20 埼玉県

斉藤好友さん
ペタンク



p.21 千葉県

須賀田貞彦さん
ゲートボール



p.22 千葉県

田邊義衛さん
民謡



p.23 東京都

小澤 正さん
バウンドテニス



p.24 東京都

栗原 操さん
ソフトテニス



p.25 神奈川県

青木 陽さん
剣道



p.26 神奈川県

田口 靖さん
サッカー



p.27 山梨県

齊藤敬文さん
囲碁



p.28 長野県

田中輝明さん
ローイング



p.29 長野県

丸山 洋さん
eスポーツ



p.30 横浜市

佐藤力男さん
ターゲット・
バードゴルフ



p.31 横浜市

野田容子さん
ローイング



p.32 川崎市

小林東明さん
水泳



p.33 川崎市

村松弘衛さん
民謡



p.34 新潟市

小池越路さん
ダンススポーツ





サッカー とち丸シニアサッカークラブ（選手代表）

しの ぎき あきら

篠崎 明さん 68歳 ● 参加歴：3回目

大好きなサッカーで、いつまでも健康生活

今回のねんりんピックとっとり大会は、初日の開会式が風雨のため会場変更となる不安なスタートとなりました。開催準備に尽力された方々の気力も下がる状況でしたが、私が参加したサッカー交流大会では天候も回復し、滞りない競技進行と選手への細かな気遣いで快適な環境を提供していただきました。大会関係者には大変感謝申し上げます。

私たち栃木県チームの対戦相手は川崎市シニア選抜（川崎市）、伊賀フットボールクラブシニア（三重県）、FC延岡（宮崎県）で、全国各地のチームが参加する大会ならではの相手でした。試合開始前は、ねんりんピックの目的の一つである「触れあいの思い」を持って楽しむ気持ちでいましたが、いざ試合が始まると勝利を目指して激しく競り合う場面もありました。結果は2勝1分け、ブロック優勝を勝ち取ることができました。勝因としてメンバーの思わぬ活躍もありましたが、それ以上にチーム力を向上させたのは、試合前夜の作戦会議、飲みニケー

ションで生まれた団結力だったことは言うまでもありません。

私たちのチームは県内の「栃木県シニアサッカー オーバー60歳リーグ」で活動していて、ほとんどのメンバーが若い頃からサッカーを続けています。ただ、今のチームと一緒にプレイしたのは60歳を超えてから。長い期間ではありません。年をとってからのチームメイトなのに、目標が同じためか、団体競技のためか、協調性と主体性のバランスが取れているようです。

シニアサッカーは40歳以上の年齢別カテゴリーが設定されていて、カテゴリーごとに関東大会、全日本大会を目指せるなど、幅広い年齢で活動できる環境がつくられています。また、ねんりんピックには最高齢者表彰があり、今大会のサッカーでは89歳の方が受賞されました。スポーツを続けるみんなが高齢者表彰を受けられるよう、それぞれのレベルで競技を続けられる環境整備を望むところです。

交流大会で好成績を記した一方で、地元探索がほとんどできなかったことが心残りです。地元探索はねんりんピックでの大きな期待の一つだったので、チーム取りまとめ役として反省しています。

最後に、今大会に尽力された栃木県関係者に感謝申し上げます。ぜひまた参加したいので、大会を長く続けてください。



Cブロック優勝の栄冠を手にした栃木県選手団。（後列右から4番目）



マラソン 10km 栃木県（選手代表）

まつばら みさお

松原 操さん 65歳

●参加歴：1回目

目指すは「スーパーおじいちゃん」

ねんりんピックのことは10年前、富山県の単身赴任先で知りました。必ず出場するという熱い思いで地元強豪チームに入部し、妥協することなく厳しいトレーニングを積んできました。

60歳で会社を退職して自宅のある栃木県に戻り、「いざ勝負するぞ」と思いきや、コロナ禍で2年間の開催延期に。熱意が薄れ、体力も衰えてきて、今年もダメかと諦めていたところに突然の出場依頼がありました。すぐにでも返事をしたかったのですが、日程が長いので職場と相談し、家族の理解もあって出場を決断しました。

普段は介護施設に勤務しながら、パートタイムの空き時間を利用して、月間走行300kmの練習量をこなしています。週末には北関東のマラソン大会で同年代のライバルと競い合っただけでメダルをもらうなど、利用者さんに元気を与えられるようにと頑張ってきました。

今回のねんりんピックは予選会でも優秀な成績を取ることができ、最強のチーム編成だと思っていましたから、本大会で全員が入賞したのは当然の結果だと思っています。レースは1

日で終了したので、翌日はメンバー各人が鳥取観光を楽しみました。

私自身は富山時代のライバルに再会したり、他県参加者とメールを交換したり、グループLINEをつくって今後の交流を約束したり、ねんりんピックの本来の趣旨である「交流」という面でもよい出会いがたくさんありました。

一つだけ心残りは、荒天のため最大のイベントである開会式での入場行進ができなかったこと。もう一度出場して、陸上競技場を行進する夢を叶えたいです。

初老を迎えて呆けないように、前職のOB会に入っているいろいろな行事に参加したり、若い時に競技をしていたロードバイクに乗ったり、冬場には近くのスキー場に出かけて1級の滑りを披露したりと、忙しい毎日を送っています。

高齢の身となり、これまでの感謝の気持ちを社会貢献の形で表すため、依頼があればボランティア活動などにも協力していきたいと考えています。

年齢を重ねるにつれ、健康のありがたさを強く感じている毎日です。無理をせず、セカンドライフを楽しみながら「スーパーおじいちゃん」を目指しています。



メンバー全員が入賞を勝ち取った。(左端)



6位入賞を果たし、満足のピースサイン。



水 泳

背泳ぎ 50 m、平泳ぎ 25 m
新町アクアピア（選手代表）

さかき ばら

こ

榎原 よし子 さん 74 歳

● 参加歴：1 回目

人生はまだまだこれから、新しい挑戦もしたい

私は水泳を始めて約 20 年になります。楽しく水泳教室に通い、コーチのおかげで日に日に上達し、いつしか競技大会に出場することにあこがれるようになりました。

友人とチームをつくり、東京、大阪、名古屋等々の大会に出場しました。コロナ禍で大会自粛ムードになり、加えて身体の故障や衰えもあって、体力にも自信が持てなくなりました。

そんなとき、ほかの水泳クラブの友人から、ねんりんピックに参加してとても楽しかったという話を聞きました。私も、もう一度楽しい経験をしたいと思うようになり、仲間を誘い一緒に応募しました。

9 月 19 日に、群馬県社会福祉総合センターで結団式が執り行われました。初めて選手役員全員が揃いのユニフォームで集まり、身が引き締まる思いでした。

いよいよ出発当日、10 月 18 日は高崎駅に集

合し、北陸新幹線の金沢経由で敦賀駅へ、バスに乗り換えて兵庫県湯村温泉に向かいました。初めての路線でしたので、心うきうきでした。

吉永小百合さんの「夢千代日記」撮影の常宿、朝野家に宿泊し、女将さんから当時の話を聞いて映像がよみがえりました。選手団全員での食事は和やかで楽しかったです。

19 日はあいにくの雨で、総合開会式は縮小開催となりましたが、群馬県議会議長さんがわざわざ鳥取県まで激励にみえて、気さくに話しかけていただき、大変励みになりました。

20 日、21 日の水泳競技はボランティアの高校生たちが気持ちよく接してくれて、充実した時間を過ごすことができました。

私は 50 m 背泳ぎ、25 m 平泳ぎに出ました。

日程の都合で観光はできませんでしたが、4 泊 5 日、友と談笑し、人生の先輩たちからは「人生はまだまだこれから」と学びました。私の水泳人生に新たな 1 ページが加わりました。

また機会がありましたら、今度は別の競技に挑戦してみようかと思っています。このねんりんピックとっとり大会は新たな気持ちにさせてくれる大会となりました。ありがとうございました。



水泳会場の控え室でチームの仲間とともに。(左端)



総合開会式会場で群馬県議会議長さんと記念撮影。(2 列目左から 2 番目)



サッカー 群馬シニア FC (監督兼選手)

さか た ひろし

坂田 弘さん 67歳

● 参加歴：2回目

全勝でブロック優勝、チームで笑みの花が咲く

10月18日、高崎駅に集合して北陸新幹線で金沢経由で敦賀駅へ、その後バスで前泊地の兵庫県湯村温泉の朝野家へ向かいました。女将のあいさつで、湯村温泉は昭和56年のNHKドラマ「夢千代日記」の舞台になったと知りました。食事もお風呂もとてもよかったのですが、露天風呂に入る頃には雨が……。翌日の開会式の天候が気がかりでなりませんでした。

19日は早朝から本降りの雨、総合開会式会場の鳥取県も雨の予報でした。財団職員から総合開会式の縮小開催が告げられ、雨の中でふれあい広場の出展ブースで鳥取名産品の買い物、酒蔵ブースではクラフトビールや地酒を堪能しました。私は監督会議で、Hブロックの沖縄県、北海道、愛知県の監督と顔合わせを行い、明日からの健闘を誓い合いました。

20日の会場となった Axis バードスタジアムはJ3リーグ所属のガイナレ鳥取の本拠地で、サッカー専用のスタジアムでした。芝のコンディションは最高で、更衣室も使わせていただき、プロの雰囲気を楽しむことができました。

初戦の相手は北海道の室蘭シニア60サッカー

クラブ。室蘭といえば、高校サッカーの北海道代表校があることで有名です。名前に負けないようリラックスして臨むことを心がけました。その成果か、うまくパスが回り、3-0で勝利。2試合目の相手は沖縄県シニアFCでした。相手は中盤からロングボールをFWへ出すパターンが多く見られました。同年代なのに、キック力・走力のある選手が多く、苦戦を強いられました。前半は1-1、後半に粘りを見せて追加点を入れ、結果は2-1で勝利することができました。

21日の会場は殿ダム記念広場でした。試合相手はブロックで2勝している愛知県の愛知シニア60で、事実上の決勝戦となりました。サイド攻撃型のチームでしたが、我がチームのDFがうまくしのぎ、前半の早い時間帯で先制、その後追加点を取りましたが、猛攻撃により1点失点、結果は2-1で勝利することができ、今大会3戦全勝し、Hブロックで優勝を手にすることができました。

「咲かせよう 砂丘に長寿と笑みの花」という大会テーマのとおり、その夜の宴会は、まさに笑みのこぼれるにぎやかなものになりました。

私は今回で2度目の参加ですが、ねんりんピックは参加種目競技のみならず、総合開会式などさまざまなイベントが企画され、他県や他の種目参加者と交流ができる貴重な機会です。ぜひまた参加したいと思います。



全員で勝ち取った優勝！ みんな良い笑顔。(前列左から4番目)



ペタンク 三球黒田 (監督兼選手)

さいとう たかとも

斉藤 好友さん 78歳 ●参加歴：1回目

人生談義に花が咲いたねんりんピック

三朝の街は、どんな田舎だろう。

競技場は、山の中腹を切り開いた小高い丘の上にありました。のぼり旗が道路沿いに並び、小学生がアレンジした絵でギッシリ埋め尽くされていました。埼玉県のマスコットのコバトン、深谷ネギも描かれていました。

一つのテントに4チームごと、リーグ戦の対戦相手が集結していました。人生の達人たちは、1分もしないうちに、もう30年も一つ所にいたかのように会話が弾みます。広島の方からは「爆心地から3キロメートルの所にいたが、助かって今ここにいる」とお聞きし、静岡県伊豆の皆さん、大阪府の皆さんも、和気あいあいと

していました。

たぶん皆さん、試合のことより人生談義のほうが楽しいのではないかと思いました。一度に他県の皆さんと50年来の友人のように会話をします。まさに「ねんりんピックの醍醐味ここにあり」と思いました。

私たちは、三朝ガーデンホテルに3泊しました。予選リーグで敗退して、さて、明日はどうしよう、お昼はどうしようと悩んでいたところ、ホテルの方が昼食を作って昼の時間に競技場まで持ってきてくださいました。素朴といえば、それまでですが、これぞ三朝の心意気。

このホテルには4組ほどしか泊まっていませんでしたが、都会のホテルと違って、ここでもお仲間ができました。青森の方のなまりの言葉にさそわれて話が弾み、神奈川の皆さんともすっかりうちとけました。

バイオリン工房、ラジウムを発見したキュリー夫人の銅像、足湯も楽しみました。ここの源泉を飲むと、長生きをすることのこと。

三朝、いい街でした。これぞ、至福の時。

ポンと、頬をたたいてみた。



試合後に埼玉県ののぼり旗の前で、チームメイトと一緒に。(左端)



キュリー夫人の銅像の前で。三朝の観光も大に楽しんだ。



ゲートボール 千葉県野田（選手代表）

すがた さだひこ
須賀田 貞彦さん 84歳 ●参加歴：1回目

「生きていく力」をくれたねんりんピック

「えっ…本当に!?信じられない…優勝?」。この言葉と一緒に走り寄って握手を求めてきたのが、仲間数人の満面の笑顔だった。私たちのゲートボールチームは何回も、いや10回以上も市内大会で優勝し、今回は挑戦して初めての県大会優勝とねんりんピック出場資格を得たうれしい瞬間でした。

それからというもの練習日を週2回から3回に増やし、ねんりんピックに向けて練習を続けてきました。3カ月前からは自分の不得意な技術を伸ばすため、各自で自由に練習をして、楽しくやる気を持ちながら励んできました。「何十年も続けてきたけれど、こんなに楽しく熱心に皆が練習したのは初めて」「大会で成果が出ればいいね」と話しながら、充実した日々を送ることができました。

大会1日目は羽田空港から米子鬼太郎空港まで飛行機の旅。バスで米子駅を経てホテルへ向かい、明日の開会式参加に夢を馳せました。

2日目は生憎の大雨で、開会式は体育館で急遽行われることに。人数制限のあるなか、ゲートボールは私たちのチーム6人を含む20名が参加し、各県の代表を応援することができました。千葉県選手が紹介されると、事前に用意した菜の花を客席から元気に大きく振り、他県の方々からも

大きな拍手が起きて体育館いっぱい広がる素晴らしい光景でした。私たちも他県の選手を精一杯応援した後、兵庫県養父市の宿舎まで2時間以上かけて戻りました。

3日目は5時50分発のバスで交流大会の会場へ向かい、9時からの開始式に臨みました。その後の予選リーグは13コート第2試合に決まり、愛知県・香川県・川崎市のチームと対戦。結果は2勝1敗で残念ながら決勝進出はできませんでした。

試合前に行われたスティックの点検で不合格者が出て皆が動揺するなど、調子が出ないまま4点差で負けたのは、会場の雰囲気にも飲まれてしまったことも敗因かなと思っています。

ともあれ、ねんりんピックに出場できたことで、私たち選手に生きる張り合いが生まれ、人間関係も今まで以上に深まることになりました。現在やっている小学校でのゲートボール指導などにも自信が持てることに喜びを感じ、より生きがいとやる気を膨らませて生活を送る最近です。



日頃の成果を発揮すべく、頂点を目指して堅実にプレイ。



絆を深めたチームの面々。(前列右)

民謡 千葉県（選手）

たなべ よしえい

田邊 義衛 さん 82歳 ●参加歴：1回目



忘れられない舞台とおもてなしと、高齢者賞

私は民謡の代表として参加しました。千葉県の老人クラブから民謡が選ばれるのは初めてだそうです。

リタイア後、郷里である大網白里市に戻って20年、飛行機に乗るのは20年ぶり。ドキドキしながら大網駅から羽田空港行き直行バスに乗り込みました。千葉県選手団とは羽田空港で合流、その後は引率者がいたので安心しました。

10月19日、私は鳥取市のヤマタスポーツパークで行われる開会式で千葉県選手団の代表（20人）として行進する予定でしたが、雨が降り続いたため会場変更になり、非常に残念でした。グラウンドの上の小高い丘には鳥取県の物産を展示するテントが並び、お祭りのようににぎやかで、地元のおもてなしの心を感じました。

民謡交流大会は20日、鳥取県西部最南端の日南町にある総合文化センターで行われました。鳥取市からはバスで2時間の山道を移動したところで、のどかな山あいの町でした。会場入り口には各県代表の名前入りののぼり旗が立ち並び、いやがうえにも気分が高揚しました。

大会は56名の選手のうち3名が欠場し、私は14番目に発表しました。披露したのは「白浜音頭」で、千葉県の三大民謡の一つです。昭和31年に制作されたもので白浜の風光明媚な土地柄をうたい、明るく軽快なメロディーです。千葉県の魅力をPRするためにこの曲を選びました。伴奏は本部伴奏者、公益財団法人日本民謡協会の先生方をお願いしました。

上位入賞には届きませんでしたが、特別賞として「高齢者賞」を受賞しました。尺八を始めて50年以上にわたり民謡を続けられたのは、周囲の方々のおかげであることをあらためて思い返し、私には「金・銀・銅」より輝いて見えます。日南町の皆様の親切な心づかいと立派な舞台で唄ったことは、一生忘れることはできません。

宿泊した宿の晩餐会では、皆さんの珍しい唄や地域へのボランティアの活動状況をお聞きして、得るものが多く、楽しく、貴重な思い出となりました。いろいろな人にお世話になり、感謝しかありません。宿の人もバスの運転手さんも親切。鳥取で感じたこの「おもてなしの心」

を私も自分の周りの人たちに伝えていきたいと思っています。



千葉県三大民謡の一つ「白浜音頭」を明るく軽快に唄う。



自身の名前が書かれたのぼり旗とともに。



バウンドテニス でこ・ぼこ・ぼこ東京（監督兼選手）

おざわ ただし
小澤 正さん 78歳

●参加歴：1回目

鳥取よ、たくさんの思い出をありがとう

私は、今まで「ねんりんピック」というイベントが毎年行われていることや、こんなにたくさんの種目があることなど、まったく知りませんでした。まして大会の趣旨を知ったとしても、自分から応募できるようなものではないと思っていました。

今回、品川区バウンドテニス協会会長から3名募集のお話がありました。話を聞いてみると、鳥取県で4泊5日のスケジュールということでした。日々ボランティア活動やパートの仕事を抱えているため、日々の予定のやりくりをして何とか参加する決心をしました。

なぜか連絡責任者に任命されてしまい、6名のチームをまとめられるのか、とても不安でした。なぜならば、6名のうち3名はうちのクラブのメンバーなので問題ないのですが、残りの3名は他区の面識のない方々だったからです。それでも、結団式でお会いし、合同練習も進め

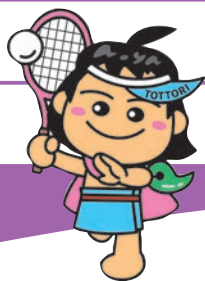
るなかで互いの心が打ち解けてきました。

今回参加して、いろいろな方とお友だちになれたこと、試合会場の入り口で、児童が団体名にイラストを描いたのぼり旗で歓迎してくれたこと、鳥取の皆さんが温かな心で迎えてくれたことなど、たくさんの思い出が心に残りました。また、大山の水がおいしく、どこにでも置いてあったことに感動しました。パンフレットなどからも、あらためて鳥取県の良さを認識しました。

雨天で開会式に参加できなかった悔しい思いはありましたが、今回とっとり大会に参加できたことを本当によかったと思い感謝するとともに、令和10年に東京で開催される際には、ボランティアでお手伝いできることがあれば協力したいと考えています。今回の企画・運営に携わった方々には心から感謝するとともに、これからもねんりんピックが末長く続くことをお祈りいたします。



さあ、対戦へ。メンバーと気合いを入れて。(前列右から2番目)



ソフトテニス 東京都B（監督兼選手）

くり はら みさお

栗原 操さん 66歳 ●参加歴：1回目

絆を深め、健闘を称えあった4泊5日

●東京予選通過に4年

ソフトテニスの男子ダブルスの本大会出場枠は2ペアのため、前年の予選会で準優勝して進むことができました。過去4回の予選ではいずれも3位のため、本大会出場が叶いませんでした。口の悪い仲間からは万年3位の選手とからかわれていました。

しかし、今回の予選は決勝戦の相手が私と同じ高校の後輩ペアで、結果的に親しい仲間との本大会出場となり、巡り合わせの幸運を感じました。

●2位グループで優勝

ソフトテニスでは、競技連盟が主催する大会がシニアの場合は個人戦が中心であるため、団体戦かつ男女混合はねんりんピックが唯一の大会です。具体的には混合ダブルス、男子ダブルス、女子ダブルスの合計3ペア6名で1チームとなり、全国の代表選手と戦いました。東京都代表はAとBの2チーム12名。Aチームは予選リーグを1位で勝ち上がり、決勝トーナメントでは優勝したチームに惜敗しベスト8に入賞でした。Aチームは本大会で優勝してもおかしくない実力があったことは間違いありません。

我々Bチームは予選で2位に甘んじたものの2位トーナメントで優勝。まるで決勝トーナメントで優勝したかのような思いでした。両チームとも今までにあまり経験のないチーム編成のため、いつもとは一味違うプレッシャーや喜びを感じながらプレイを楽しみました。

●4泊5日の効果

我々は本大会に向けて自主的に強化練習や懇親会も行い、遠征の日を迎えました。さらに4泊5日をともした効果は絶大で、例えるなら学生時代の合宿の感覚で過ごすことができました。50年ぶりの感覚です。

当然、「同じ釜の飯」を食った仲間同士プレイにも応援にも熱がこもり、その点においてもテニス仲間の絆が深まったことに間違いありません。今後も他の大会などでの再会時には、ねんりんピックの思い出を語ることになると思います。

●一つだけ残念なこと

総合開会式が荒天のため観覧できず、宿に戻ることもできずに夕方の行事まで会場で時間を潰したことです。数時間に及ぶ雨模様のなか、翌日の試合に向けてのコンディション維持が非常に大変でした。もし天候に恵まれていたら素晴らしい思い出になったことだろうと思います。

最後に、ねんりんピックを楽しませていただいた東京都スポーツ協会の関係者の皆様に御礼を申し上げ、私の感想とさせていただきます。



総力を尽くして2位トーナメントを制覇！（右端）



剣道 神奈川県（監督兼選手）

あお き あきら

青木 陽さん 72 歳

● 参加歴：6 回目

多くの剣友との交流「交剣知愛」に感謝

ねんりんピックとっとり大会の剣道交流大会は、10月19日および20日の2日間、米子市の鳥取県立武道館にて行われました。

私のねんりんピック参加の動機は、父が参加経験があることに加え、各県持ち回りのミニ国体とも言われ、開催県の特徴を生かした催しに参加できるのはもちろん、他県剣友との交流「交剣知愛」ができること。60歳になっただけで参加したいと思っていました。

剣道は年齢順に5人でチームを構成する団体戦で、65歳以上70歳未満が1名、70歳以上が1名含まれていなければなりません。神奈川県では毎年年代別の予選会が行われ、出場できるのは政令都市以外の選手で、しかも2年続けて参加することはできない仕組みになっています。私は幸運にも予選会で成績を残し、第26回こうち大会から今回の第36回とっとり大会まで、偶数回の計6回に出場することができました。年齢順に5人の順番が決まるため、5配置（先鋒から大将まで）すべてを経験し、今回は大将兼監督として参加しました。

過去5回の出場を振り返ると、2年前の第34回大会は地元神奈川県で開催され、コロナ禍の制限下ではありましたが、地元開催の重圧のなかにも熱い応援の後押しがあり、初優勝することができました。また個人としては、栄誉ある選手宣誓の大役を無事果たせたことが印象深く残っています。

それを踏まえての今大会の出場なので、監督として何としても予選リーグを突破しようという意気込みで臨みまし

た。楽しみにしていた総合開会式は、全体の競技日程の関係で参加できずに残念でした。競技は、初日に参加する67チーム（参加選手約400名）を4～5チームの16ブロックに分けてリーグ戦を行い、我がチームはブロック1位で予選を通過。第一目標を達成して気持ちに余裕ができ、2日目の決勝トーナメントは1回戦を順当に勝利し、2回戦では地元鳥取県Bチームの気迫に押されたか、惜敗しました。成績としては、誇れる堂々のベスト8（優秀賞）でした。

6回の出場を終えて、各開催県の皆様との交流を通じてその土地柄に触れられたことは何物にも代え難い経験であり、また、何よりも他県剣友と「交剣知愛」ができたことに感謝したいと思います。

最後に、今大会の準備から実施・運営に関わった関係者の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。



開始式前に全員集合。身も心も引き締めて試合に臨む。(中央)



サッカー 横須賀メジャー (監督兼選手)

たぐち やすし

田口 靖さん 69歳 ●参加歴：1回目

けがを乗り越えてあこがれのピッチへ

昨年、横須賀シニアサッカークラブが創立40周年を迎えました。現在は40代から70代まで各年代のチームが所属し、メンバー登録は120名余りの大所帯のクラブです。

今回、出場したのは60代を中心としたチーム、横須賀メジャー。神奈川県サッカー協会から昨年度のリーグの成績と活動が評価され、26チームの中から推薦されました。いつかねりんピックに出場してみたいと思っていましたが、今年、自分のチームが出場できるとは思ってはいませんでした。このチームに所属して8年目となりますが、1年目に半月板損傷、次の年には脊柱管狭窄症を再発するなど満足な活動ができず、このままサッカーを辞めようと思ったこともあり、当時通っていた医師のアドバイスを守り、リハビリを懸命に続け、徐々にではありますが体の痛みはなくなりました。毎日のストレッチ、筋力トレーニングを続けた結果、4年前くらいから再びボールを蹴ることができるように。今回のねりんピック出場は、諦めずに続けてきたことへのご褒美だと思いました。

鳥取は亡き父の生まれ故郷です。この地を踏むのは約40年ぶりでした。鳥取空港に降り立つと、ねりんピックのポスターやのぼりがあり歓迎ムード一色で、ワクワク感がたまりませんでした。その日は監督会議があり、県民体育館では開会式が行われました。各県のユニフォーム姿の人が多く見られ、大会の盛り上がりは最高潮に達していました。

大会は64チームを16グループ・4チームに分け、グループ内でリーグ戦により順位を決める方式で3試合行います。1日目は京都市との試合でした。先制点を入れられ焦りましたが、どうにか同点のゴールを決めて引き分けでした。監督としての一安心と、素晴らしい芝のピッチに立てた幸せを感じました。2日目は岩手県と熊本市との試合に臨みました。その2試合とも勝利して得失点差でブロック優勝することができました。チームメンバーも最高の笑顔で表彰式に臨んでいたことが忘れられません。今回の大会は17人で参加しましたが、メンバー登録は18人でした。参加できなかった1人は大会前に病気で他界しました。金メダルはその家族に渡すことができたので本人も喜んでいると思います。

いろいろな人の支えがあったからこそ、ねりんピックのピッチに立つことができました。大切な思い出ができました。これからも体の続く限り、地域でサッカーを続けたいと思います。この大会に参加できたことを心より感謝いたします。



ヤマタスポーツパーク補助競技場にて。チーム一丸となって勝利を手に。(前列右から4番目)



囲碁 山梨県囲碁チーム（選手代表）

さいとう ひろふみ

齊藤 敬文 さん 86歳 ● 参加歴：3回目

“杉のまち” 智頭で囲碁を楽しむ

バスの車窓から、手入れの行き届いた杉の美林が見える。さすが昔から有名な智頭林業の中心地である。

大会初日、実行委員会会長の「それでは始めてください」の掛け声で一斉にパチリ、パチリと音が響く。1局目、相手は強そうな顔をしている。中盤過ぎに「負けました」と頭を下げた。勝者のうれしそうな顔、残念。2局目は互角、途中相手が長考し、時間切れ勝ち、ほっとする。

試合の合間に、智頭町長さんのあいさつにあった杉神社を見に行く。杉の精霊を祀る全国でも類を見ない神社だという。長男に杉太郎と名前をつけたのでぜひ参拝したいと思い、ご当地で買い求めた立派な御朱印帳を持って、なんとか坂道を登った。やっと辿りついた山中には三角形の巨大なモニュメントが立っていて、これが御神体だという。いささか拍子抜けした。しかし途中でケンポナシの実やカリガネソウの花を見たのでよかった。

大会2日目、3局目は序盤に無理な手を打ち中押し負け、4局目は、自分より年上らしいのでこは負けるわけにはいかないと頑張ったが、結果は半目負け。他のメンバーに申し訳ない。

この日は、会場から歩いて石谷家住宅を見学した。敷地3000坪、部屋数40余りの和風建築で、滝のある素晴らしい庭園もあり、さすが国指定の重要文化財だけのことはあった。

ここの街道筋はかつて智頭宿として賑わったそうだが、今は人も車も少なく、閑散としている。たぶん、高速道路ができたので素通りしてしまうのだろう。でも、かえって静かで心が癒された。

試合終了後、成績発表のアナウンス。「第3

位、山梨県囲碁チーム」。これにはびっくり、他の2人が全勝したお陰である。誰かの言葉ではないが、まさに「望外の喜び」であった。

宿泊ホテルの食事時には他県の選手と交流する機会もあり、県の囲碁事情やお国自慢で盛り上がった。山梨県は小さい県だが、富士山と2番目に高い北岳があると言うと、驚かれた。

この大会は年々レベルが上がり、県代表で活躍した選手も多く、なかなか勝つのが大変だ。私も、次回参加する機会があったら、せめて高齢者賞でも目指して頑張ろうと思う。

最後に、大会期間中、運営に尽力された町の職員やボランティアの皆様には、大変お世話になりました。おそらく大半の方は「囲碁」というものをご存じなかったと思いますが、気持ちよいあいさつ、丁寧な対応、本当に楽しい2日間を過ごすことができました。心より御礼申し上げます。



帰県報告会でチームメンバーとともに。戦績は「望外の喜び」だった。（左端）



ローイング

81 吾往矣われい かん (監督兼選手)

た なか てる あき

田中輝明さん

65歳

● 参加歴：1回目

多くのオアズマンとの交流は一生の思い出

私たち81吾往矣われい かんクルーは、諏訪清陵高校第81回卒業生のローイングが好きな同級生クルーの一つで、60歳の還暦を機に「皆で楽しく元気に体力づくり」をモットーに活動を開始しました。高校時代に端艇部だった私と宮坂、ローイング経験がある山崎以外は、「60の手習い」という自身の成長に飽くなき挑戦を続ける仲間思いのメンバーです。

今回、予選会出漕後にねんりんピックとっとり大会への県代表参加を打診された際、即出場を決断した理由は、「大きな大会に挑戦し、遠征したい」という気持ちと、本大会のローイング会場がなんと私と宮坂が出場した昭和52年のインターハイが開催された米子市錦海漕艇場だったからです。「懐かしの錦海漕艇場でもう一度漕ぎたい」「いつものローイング仲間と全国という舞台上で思い切り漕ぎたい」、そんな思いを抱く6人のメンバーで参加させていただきました。

ちなみに、クルー名の吾往矣は母校の校是である孟子の「自反而縮雖千萬人吾往矣」(みづからかへりみてなをくんばせんまんにんといへどもわれゆかん)に由来しています。

10月19日、20日の2日間の日程で行われたローイング種目は、初日は明け方からの雷と小雨で午前の練習が中止となりましたが、会場の雰囲気味わいたいと、緊張とワクワクした気持ちで

錦海ボートコースへ直行。コースを目の前の瞬間、47年前の夏の思い出が蘇りました。当時あったコンクリート製の岩壁はありませんでしたが、中海の対岸に見える八尋鼻からの小高い山の風景は当時を思い起こさせるに十分でありました。

結局、その後の豪雨強風で予選レースは中止となり、初日はレセプションに参加して全国のクルーと交流し、楽しい時間を過ごしました。クルーメンバーは別々のテーブルに分かれ、さまざまな他クルーの方々と交流して翌日の健闘と他のレガッタでの再会を誓い合いました。

2日目も強風により本来のコースではレースができませんでしたが、大会関係者の懸命なご努力により、急きよ波の影響を受けにくいコースを設定していただき、一発勝負のレースではありましたが「楽しく錦海で漕ぐ!」という目標達成と、思いがけず3位の銅メダルを獲得することができました。

今回は思い出の場所かつ全国大会に出場し、多くのオアズマンと交流できたことに加えて、「参加クルーには絶対にレースで漕いでもらおう」という大会関係者の熱い思いに感激した、一生の思い出に残る大会でした。年輪を重ねた者同士が味わえる感動を本当にありがとうございました。



仲間思いのメンバーに恵まれ、見事3位に。(右から2番目)



eスポーツ Red Wing 信州（選手代表）

まる やま ひろし

丸山 洋さん 71歳

● 参加歴：1回目

「eスポーツって何？」から始まったねんりんピック

eスポーツは「エレクトロニック・スポーツ」の略ですが、具体的にはどんなスポーツかご存じでしょうか？ コンピュータ、ゲーム機などを用いての対戦をスポーツ競技として捉えたものです。種目はスポーツ、レース、リズムなどのゲームがあります。

eスポーツは今回のねんりんピックとっとり大会で初めて正式種目に採用され、種目はリズムゲームの「太鼓の達人」でした。大会は境港市市民交流センター（みなとテラス）で行われました。

結果から報告しますと、長野県は、千葉県、鳥根県、鳥取県のブロックに入り、2勝1敗で決勝リーグには進めませんでした。

参加33チームが8ブロックに分かれ、総当たりの予選リーグが開催されました。2勝できたことは「上出来だ！」と思っています。

私たちは5月に実施された県大会の上位3人で結成したチームで、3人とも塩尻市が実施している、認知機能の向上・維持を目的として開催されたeスポーツ講座のメンバーでした。「太鼓の達人」も講座の1種目ではありましたが、主にやっていたわけではありません。

長野県の代表と決まってから、約5カ月間、代表としての緊張・不安、そして責任を背負いながら、3人で練習を重ねてきました。振り返れば、大会までの日々は楽しく素敵な思い出になっております。

大会では多くの県の方々と交流を深めることができました。優勝した愛知県の方とは土砂降りの雨の中、代表者が乗るバスを一緒に探したことでご縁がつながりました。また、準優勝だった長崎県の選手の皆さんとは宿泊場所が一緒

だったこともあり、いろいろなお話ができ、決勝戦ではどちらのチームを応援したらよいのか困りました。

決勝当日は、トーナメントとは別に個人戦の交歓大会が開催されました。各都道府県・政令指定都市から39名が参加し、予選リーグ、決勝トーナメントが行われ、私は優勝することができました。

長野県から駆けつけていただいた皆さん、また、塩尻においてライブビューイングで応援をしていただいた皆さんの思いが私の優勝への原動力となりました。

シニアになり、このような全国大会に参加できたことは一生忘れることができない思い出となっております。

最後になりましたが、長野県から駆けつけていただいた応援団の皆様、塩尻のeスポーツ講座の皆さん、そしてスポンサーの皆様ほか、この大会に参加するにあたり私たちをサポートしていただいた多くの皆様にあらためて感謝申し上げます。



初めて正式種目となったeスポーツで健闘。(左から2番目)



ターゲット・バードゴルフ 横浜さわやか泉（選手）

さとうりきを
佐藤力男さん 89歳 ●参加歴：2回目

最高齢者賞を受賞、生涯現役を貫きたい

ねんりんピックは今回で2度目。待ちに待った10月18日、新横浜駅に160名の横浜市選手団が集合し、10時07分出発。姫路駅に到着するまでの新幹線車中でにぎやかに他の競技の方々と交流でき、到着後は自由行動で改築後の姫路城を初めて見学、本当に素晴らしい城でした。

ホテルでは参加チームが一堂に集い、横浜市選手団の懇親会兼結団式が行われました。各チームの代表が抱負を披露し、和気あいあいと親睦を深めた後は、明日19日の開会式に備えて早めに就寝しました。

19日朝6時30分頃、バスでホテルを出発、鳥取県立布勢総合運動公園へ。だんだんと雨が本降りになり、総合開会式は屋内で行われて、我々選手団はなすすべもなくテントの中などで待機することになりました。開会式終了後、バスで延々3時間半かけて鳥根県出雲市のホテルに到着。我々「横浜さわやか泉」選手団4名は、明日からの本番で横浜市代表として恥じない試合を行う約束をして床に就きました。

20日当日は素晴らしい天気にも恵まれました。バスで1時間半かけて会場の日吉津村海浜運動公園に到着。横浜を出発して3日目、いよいよ大会が始まると思うと体が自然と臨戦体制に入ったと感じました。

開始式は日吉津村村長をはじめとした関係役員が勢揃いするなかで行われ、私は最高齢者賞を受賞させて

いただきました。10月18日に89歳の誕生日を迎えたばかりのタイミングでの受賞は大変光栄なことで感謝申し上げます。日頃よりゴルフを65年、ターゲット・バードゴルフを40年やってきたお陰かなと思っています。

式典の最後には、選手歓迎「囃子隊ひえづのわ」和太鼓チームの楽曲を力強い太鼓で披露していただき、選手団一堂感激しながら本番のコースへ。「プレイボール」の合図とともに94名が前半と後半に分かれて熱戦を繰り広げました。

我が「横浜さわやか泉」は女子1位と3位の大健闘、男子は私が15位で飛び賞を獲得するなどチームとして大活躍でした。また、地元の婦人部のおもてなしコーナーでは、豚汁、おそばなどで地元のおいしさを味わいながら、2日間有意義に過ごすことができました。

これからも年齢を忘れてターゲット・バードゴルフを楽しみ、次の機会にも参加できるように頑張ります。日吉津村の皆様、大変お世話になりました。



89歳で最高齢者賞を受賞！



大健闘した横浜さわやか泉チーム。(右から2番目)



ローイング

一般の部 レガッタクラブフレンドシップ (選手)

の だ よう こ

野田 容子 さん

56 歳

● 参加歴：1 回目

ボート競技の楽しさを、もっとたくさんの方々に！

今回、ローイング一般の部に参加させていただきました。空港に降り立った瞬間から米子の方々、ねんりんピックスタッフの方々、ゲゲゲの鬼太郎さん、皆様から温かい歓迎を受けて感動しました。

到着日は快晴、素晴らしい天気でしたが、翌日の予選は大雨で中止。もどかしい気持ちを感じつつ会場で過ごしていましたが、控え室となったテントの中ではクルーの仲間、違うチームの皆様、運営の方々とご一緒し、いつもとは違う状況下での仲間意識？ 連帯感？ のようなものが生まれ、会話も止まることなく大変楽しく過ごせました。

用意された昼食弁当にはご当地名産の食材が使われ、パッケージもねんりんピックを感じる素敵なものでした。おもてなしコーナーなどでは名産菓子や果物の配布もあり、雨で中止となった予選日でも米子の方々の温かい言葉とおもてなし精神で、横浜市代表クルー全員が笑顔

になりました！

夜の交流会は、くじ引きで席が決まるという不安な始まりではありましたが、他県のボート協会の方々、選手の方々、運営スタッフの方々とまったく知らない人たちとテーブルを囲み、アルコールの力を少しだけ借りて、ローイングという共通点から会話・交流が進み、本当によかったと思います。

予選がなくなり本戦だけとなって余計に力が入り、迎えた試合当日。強風で急遽コース変更などありましたが、チーム一丸悔いのないよう力を出し切って漕ぎました。

ねんりんピックに参加して、さらにボートが好きになりました。ボート競技を知らない人も多いと思いますが、もっとたくさんの方に知ってもらい、体験してもらえたらと願っています。学生時代から続けている方も多いのですが、私のように子育てや介護が終わってからも十分に始められるスポーツです。

最後となりますが、私たち「レガッタクラブフレンドシップ」チームは一般の部（混合）で1位となり、メダルをいただきました。私の大切な宝物です。



全力を尽くして笑顔の我がチーム。(右から2番目)



見事優勝！ 一生の宝物に。



水泳 背泳ぎ 25m、50m 川崎市（選手）

こばやし はる あき

小林 東明さん 83歳 ●参加歴：2回目

かけがえのない友情を手に入れた貴重な場

2024年10月18日、東海道新幹線新横浜駅で川崎市の水泳出場選手が一堂に顔を合わせたのは、初めてのことでした。オレンジ色の目立つユニフォームを着た、大勢の人たちが鳥取に向かう姿は、修学旅行生のごとく喜々として楽しく、明るく旅をする光景は良いものと感じました。

20日の交流大会初日、競技会場の招集場所入口で、同年代で同種目に出場すると思われる人と隣り合わせになりました。その人と他愛のないことをいろいろと語り合っているうちに、なぜか仲良くなりました。その人がMさんです。かくも容易に他人同士が仲良くなれるという情景は、誠にうれしいものです。

競技が始まり、いざ50m背泳ぎ（80～84歳）のレースがスタートしましたが、結果は0.61秒の小差で私が2位、Mさんが1位でした。互いに笑顔で健闘を称え合い、成績を褒め合う仲になっていったのです。

翌日、宿泊している美保関から米子の競技会場へ向かう1時間ほどのバスの中で、突然スポーツ選手としての意地がこみ上げてきたのです。0.61秒は腕1本分ぐらいの差でしかない。頑張り不足だと悔しさだけが頭の中を占めました。

今日の25m背泳ぎが最後のレースです。残っているエネルギーをすべて、はきだして勝負しようと思えました。たった20秒ほどの辛抱だと、己を奮い立たせたのです。

しかし、レースが終わっても自分の着順がまったく分かりませんでした。しばらくして同じ川崎市選手団の一人と会ったので、自分の着順を問うと人差し指1本を立てて教えてくれました。

控室に戻ると、先に戻っていたMさんが近づ

いてきて、「おめでとう」と言って握手を求めて祝福してくれました。2位になったMさんとのタイム差は0.1秒で、勝負はお互いに1勝1敗の成績に終わりました。昨日の出会いから今日のレースまでのわずかな時間でしたが、数十年来の友人のような間柄になれたためぐり合わせは何ものにも代えられない出会いでした。

スポーツを経験した高齢者は、悲劇喜劇の実演を終え、損得を超越した無欲の生活に満足し、人との穏やかな関係を大切にする習慣を身につけられるといえましょう。だから相手を大切に思う心があれば、会う人すべてと友人になれます。

ねんりんピックがそのことを「実現できる貴重な場」であることを断言できるのだと思えました。



前日の悔しさをバネに25mで優勝獲得！

民謡 川崎市（選手）

むらまつ ひろ えい
村松 弘衛 さん 73 歳

● 参加歴：1 回目



見識と友好が深まったねんりんピックの旅

民謡を趣味として50年ほど経過、今は民謡指導や大会参加に明け暮れています。

日本民謡協会から、川崎市民謡協会としてねんりんピックとっとり大会への選手派遣に協力してほしいとの要請を受け、川崎市民謡協会の理事長である私が初回代表選手となりました。応募曲は私の出身県である岩手県の民謡「南部牛方節」です。

川崎市の選手団（115名）に対する説明会～結団式も終わり、10月18日に川崎市選手団は新幹線で姫路駅に。次いで貸切バスで姫路城見学へ。私は初めて天守閣まで上がりました。初日の宿は岡山県の湯原国際観光ホテル。選手団とスタッフの皆様との夕食懇親会があり、明日からの開会式～種目別大会への鋭気高揚となりました。

19日に総合開会式会場（鳥取県立布施総合運動公園）に到着するも、雨天のためスタンド応援は体験できませんでした。解散後は、種目別に選手団が分かれて各宿泊所にバス移動。民謡交流大会に参加する他県の皆様（13名）と会場がある日南町に向かいました。日南町は鳥根県、広島県、岡山県との県境にあり、宿泊旅館までバスで約1時間30分。自然豊かで、製鉄のたたら文

化、日南米、オオサンショウウオなどが有名な町でした。

20日、会場では選手全員（56名）の「のぼり旗」で熱烈歓迎を受け、日本民謡協会派遣の専属伴奏者とのリハーサルを済ませて本番へ。川崎市スタッフも応援に駆けつけてくださいました。審査結果は最優秀賞！スタッフからはお祝いの言葉と、記念舞台動画・写真も後日届けていただきました。

同じ旅館に泊まったのは鹿児島県代表のFさん。この方は奄美シマ唄「長雲節」の三線弾き唄いで審査員特別賞を受賞。旅館とともに美酒を酌み交わしながら友好を深め、全国大会での再会を誓い合って別れました。

帰宅後は、川崎市のタウンニュースに最優秀賞受賞の記事を掲載していただき、多くの知人、親戚等から祝福を受けました。

今回のねんりんピック初参加で学んだ健康福祉祭の主旨・内容を後継者の推薦に生かします。川崎市の推進スタッフの皆様の綿密な計画と細やかな誘導に改めまして深謝申し上げます。



のぼり旗に自分の名前を見つけ、気合いも新たに。



南部牛方節で最優秀賞に！



ダンススポーツ

新潟市ダンススポーツ連盟（選手）

こいけ えつじ

小池 越路さん

67歳

●参加歴：2回目

最高齢で表彰されるまで踊り続けたい

待ちに待ったねんりんピックがやってきました。10月18日、新潟市選手団は新潟空港から伊丹までフライトし、その後バス2台に分乗して鳥取に向かいました。鳥取砂丘を観光し、三朝温泉で一泊しました。

翌19日は楽しみにしていた総合開会式でしたが、あいにくの雨で、規模を縮小し体育館での開催となりました。ほとんどの方が参加できず、会場付近で雨をしのぐことになったのが非常に残念でした。

総合開会式の会場から種目別にバスに乗り宿舎の皆生温泉に到着しましたが、なんとパートナーのスーツケースだけが届いていませんでした。会場での練習時間が刻々と過ぎるなか、1時間遅れでスーツケースが到着し、なんとか練習に参加して一汗流すことができました。いやあ、焦りました。

20日はいよいよダンススポーツの交流大会です。まずはラテンの個人戦からスタートです。チャチャチャの1次予選、ルンバの1次予選と交互に進めていきます。4次予選まで順調に進みましたが、準決勝からは休む時間もなくなります。チャチャチャの準決勝を踊り終わって戻ってくると、「262番ここに並んで！」と、すぐにルンバの準決勝が始まります。再び踊り終わって戻ってくると、「こっちですよ！」とチャチャチャの決勝を踊ります。その後も休む暇もなく並ばされて、

ルンバの決勝を踊りました。

次はスタンダードの個人戦です。練習時間の間に衣装を着替え、準備が整ってフロアに着いたのは個人戦開始直前でした。スタンダードはワルツとタンゴを交互に踊ります。スタンダードでも勝ち残ると、慌ただしくて休む暇もなく踊ります。ここまで来ると体力勝負です！運良くスタンダードもワルツとタンゴで決勝を踊ることができましたが、もうへろへろでした。

団体戦は4組で、チャチャチャ、ルンバ、ワルツ、タンゴを踊ります。僕たちはチャチャチャを踊りましたが、他の組が踊っている間は大きな声で応援をします。非常に盛り上がりましたね。一昨年の神奈川・横浜・川崎・相模原大会では準決勝で涙をのみましたが、今回は決勝を踊ることができました。

個人戦ではチャチャチャで優勝、ルンバで準優勝、ワルツ4位、タンゴ優勝と好成績でビックリでした。団体戦は第3位とこれも健闘し、その夜の宿舎での大宴会は遅くまで非常に盛り上がりました。



団体戦で3位に入賞した新潟市ダンススポーツ連盟。(後列左から3番目)

会場では久しぶりに各地のダンス仲間と会えたり、知らない人からいっぱい声援をいただいたりとうれしかったです。最高齢者賞で表彰された90歳の男性のピッと伸びた背筋が素晴らしくて、僕も最高齢者で表彰されるまで踊り続けたいと思いました。